

時をよく用いなさい

エフェソ五・一〇～二〇

選手たちの輝かしい笑顔ばかりが印象に残るリオ五輪でしたが、それとは正反対に、勝ち続ける厳しさを垣間見せてくれた選手がいました。女子レスリング、吉田沙保里選手。伊調選手に続き誰もが四連覇を疑わなかった決勝。結果はすべて予想を裏切りました。だが、それ以上に驚いたのは大ベテランの吉田選手が人目もはばからず涙を流し、ごめんなさいと繰り返し返していたこと。とてつもない重圧だったのでしよう。確かに輝く四連覇はならず。では、これまで捧げたアテネ以来十二年余の歳月は無駄になったのか。敗戦後、金メダルを得た後輩選手が語っていました。吉田選手はこれまで自分の時間を割いてまで私たちに向き合い、ずっと育ててくれたんです、と。

今日エフェソ書に「時をよく用いなさい」とあ

ります。「時」とは誰の時でしょう。「自分の」とは書かれていません。また、「よく用いなさい」。自分の時間を無駄にせず、有効活用をという意味に思っていました。原文では「市場から完全に買い取る」という珍しい言葉。

ふと思う。これは「イエスさまの時」ではないか？ たった三十三年の人生、最後は十字架刑、その人生は無駄だったのでは？ いいえ、彼ほど「時をよく用いた」方はいません。三十三年間すべての「時」を捧げ尽くし、私たちが「買い取られた」。だから今こうして、私たちはみなイエスさまのものと。今度はこちらの番！ 時をよく用いよう、私たちも。自分だけのため使わぬように。たとえ短い時間でもいい、傷つき悲しみ小さくされた方のために自らの時を捧げよう。そのとき、私たちは少しずつ「買い取って」いるのです。「イエスさまの時」を。それゆえ、「時をよく用いなさい！」。